

いま、常陸大宮市が直面していること

現在、本市の教育環境は大きな転換期を迎え、大きく2つの課題に直面しています。一つは「少子化」です。令和7年度の小学校の新入生数は214人で、毎年徐々に減少しています。もう一つは、住む地域による「教育の格差」です。市街地では塾などの教育施設を利用しやすい一方、周辺地域ではその選択肢が限られるなど、居住地によって教育的利便性に差が生じています。市では、どのような状況でも、すべての子どもたちに等しく質の高い学びを届けるため、教育環境の充実に努めています。

子どもたちを支えるために市が進める取組

義務教育施設適正配置審議会

これから10年、20年先を見据えて安定的で質の高い義務教育を提供し続けるため、令和7年12月から有識者による審議が始まりました。

時代とともに学校に求められることが変わっていく中で、未来の学校像を描き、市民の皆さんの声を反映しながら、今後も常陸大宮市の適正規模を探っていきます。



オンライン学習サービス

AIドリル機能に特化した「eライブラリアドバンス」（ライonz株式会社）や講義動画を見たりWEBドリルを解いたりできる「スタディサプリ」（株式会社リクルート）といったオンライン学習サービスを、市内の全小中学校の児童生徒は無料で利用できます。

児童生徒がタブレットを使って、自分の学習の進度に合わせて、いつでもどこでも学ぶことができるほか、塾などへ通うことの難しい地域や環境の格差解消も目指しています。

未来の学びを支える エデュケーション推進事業

複式学級がある学校には、市が独自に先生を増やして配置しています。一人ひとりに寄り添いながら、子どもたちの可能性を伸ばす、温かく手厚い教育を届けていきます。

「地域」と「つながり」で学びを豊かにする各学校の取組（令和7年度）

各学校では、地域やこれまでのつながりを生かした特色ある特別授業などを行っています。学校ごとのユニークな取組をとおして、子どもたちの郷土愛や多様な視点を養っています。



▲第二中学校のキャリア教育授業



▲大宮北小学校の「こども歌舞伎」



▲上野小学校の「上野っ子野菜」の栽培、梱包、販売



▲大賀小学校のパラオ共和国小学生とのオンライン交流



▲緒川小学校の「常陸大宮大使 宗次郎さんのオカリナコンサート」